

府民の森ほしだ園地探鳥会 (毎月第4土曜日両園地通算第 283 回)

令和6(2024)年11月23日(土)9:30～12:30頃 日本野鳥の会大阪支部
友田武・神戸徹・近藤輝男・沖光二・平軍二 (090-6901-1425)

(予定変更のお願い) 探鳥会は「ほしだ園地」→「大阪公立大学 私市植物園」に

11月23日は「ほしだ園地探鳥会」で案内していました。ところが、当日交野市主催の「交野大好きウォークラリー」がほしだ園地で開催され、ウォークラリー参加者に対し「京阪私市駅～ほしだ園地」間を歩いて参加するよう呼びかけられています。ほしだ園地内だけでなく行き帰りのハイキング道もウォークラリー参加者と同じ道を歩くことになり、ゆっくり鳥を見ることができないと思われます。そこで、探鳥会の行き先は「ほしだ園地」ではなく「大阪公立大私市植物園」に変更したいと思っています。

このため、入園料「大人350円」、但し「大阪府在住の65歳以上の方は150円」が必要です。

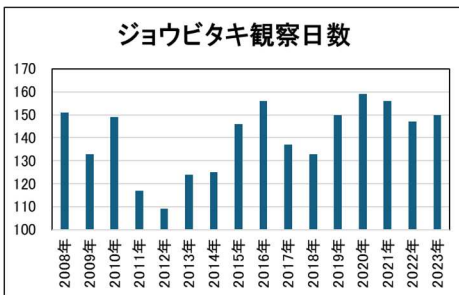
(大阪府在住の方、植物園入口で保険証・免許証・マイナンバーカードなどを提示)

I 交野の鳥シリーズ(130) ジョウビタキ

今月は交野バードに河村 壽氏が公開された 11/1 ほしだ園地のジョウビタキ雄の写真を利用させていただきました。



① 交野市でのジョウビタキ観察結果

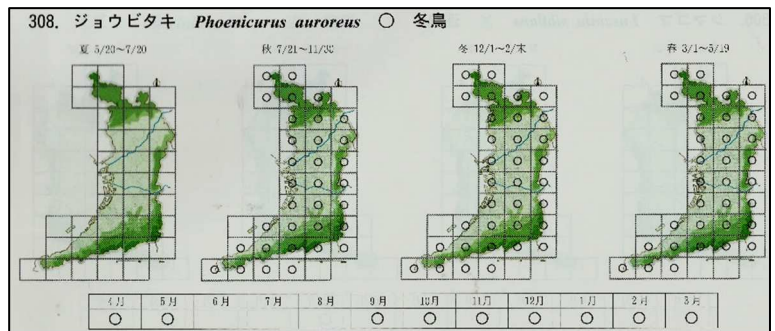


友田武氏は交野市で観察された鳥すべてを2008年以降、毎日集約されている。その中からジョウビタキを見ると、毎年10月～翌年4月、交野市内に越冬しており、年間観察日数は110日～160日となっている。

② 大阪府鳥類目録 2016 →

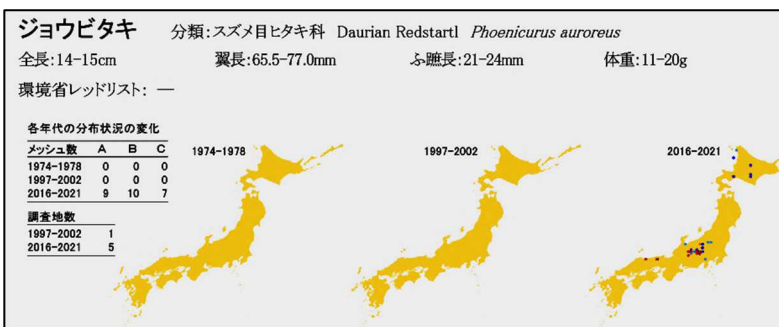
(日本野鳥の会大阪支部)

ジョウビタキの大阪府内での観察状況を鳥類目録で見ると、9月後半から翌年5月初めの間、平野部～山地までの府内全域で観察されている。



③ 全国鳥類繁殖分布調査 2021

(鳥類繁殖分布調査会)



全国的にはジョウビタキの定常的な繁殖地はなかったが、2010年代になって中国山地や岐阜県・長野県・北海道などで定常的に繁殖するようになったとのことであり、今後、大阪府でも繁殖することも予想される。尚、2023/6/10 万博公園定例探鳥会でジョウビタキを観察したことがあり、繁殖するかと思っていたが、その後は確認

できないままだったので、たまたま何らかの理由で春の渡りが遅くなったと思われる。

Ⅱ 10/26くろんど園地探鳥会結果

最初、私市駅前でジョウビタキのさえずりが聞け、何処かで姿を見ることができると思っていたが、見えないままでした。貯水ダムで、ネザサに止まっているノビタキ 1 羽おり、どうしてこんな山の中にいるのか話題になった。



上左 ノビタキ 上右 ノスリ 下 アトリ雄雌

ムギマキ期待のためバーベキュー広場で昼食するも、近くのカラスザンショウは未だ実っていないためかムギマキは来ないまま。奥の方にも行って探したが、キビタキのみでムギマキは観察できなかった。



代わりに事務所前・炊事場付近の**アキニレにアトリの大群**、

飛び去った時のカウント数は 70 羽を超えており、本日の大成果となった。帰り道、傍示の里では、田んぼの向こう側の木にノスリが長くとまっていた、全員がゆっくり観察できた。今日の資料の鳥ムギマキは見られなかったが、渡来したばかりの冬鳥ジョウビタキ・アトリ・ノスリが観察でき、気持ちの良く終えることができた。

くろんど園地探鳥会でのムギマキ観察

くろんど園地の**カラスザンショウ**にムギマキが来ることがわかり、10 月探鳥会をくろんど園地に変更したのが 2018 年、それ以降 10 月探鳥会での**ムギマキ(及びキビタキ)**観察数は左表の通りである。

年月日	ムギマキ	キビタキ	備考
20181027	4	1	くろんど園地偶数月開催の第1回目
20191026	0	6	スズメバチ駆除中で奥への立ち入り禁止
20201024	1	1	
20211023	0	1	リーダーのみのモニタリング
20221022	3	5	コサメビタキ・エゾビタキも確認
20231028	2	5	
20241026	0	2	カラスザンショウが熟していない



また、ムギマキの餌となっている**カラスザンショウの果実**を**右写真**に表示したが、11 月(2013 年)になると実が熟し殻が裂開し黒い種子が顔を出しているが、10 月(昨 2023 年)の実は未熟状態で殻が裂開していない。

今年(10/26)の探鳥会でムギマキは観察できなかったが、友田氏が集約されている交野野鳥の会メンバーによる観察実績を見ると、その後 **11/1 に初認、11/3, 4, 6, 7** に観察されている。これはムギマキが遅れて渡ったということではなく、ムギマキの渡りの最盛期が 10 月下旬と変わらないものの、実が未熟のためカラスザンショウに来なかったためと思われる。今年ように 10 月初旬まで夏の暑さが続いた年は、果実の熟する時期が遅くなるため、ムギマキはカラスザンショウ以外の餌源を探して渡っていると推定される。

IV 大阪公立大植物園での話題・メタセコイア

私市植物園の目玉の樹木は、私市植物園の元園長三木茂博士が、大阪層群80万年以前の地層にある化石から1941年に発見されたメタセコイアです。

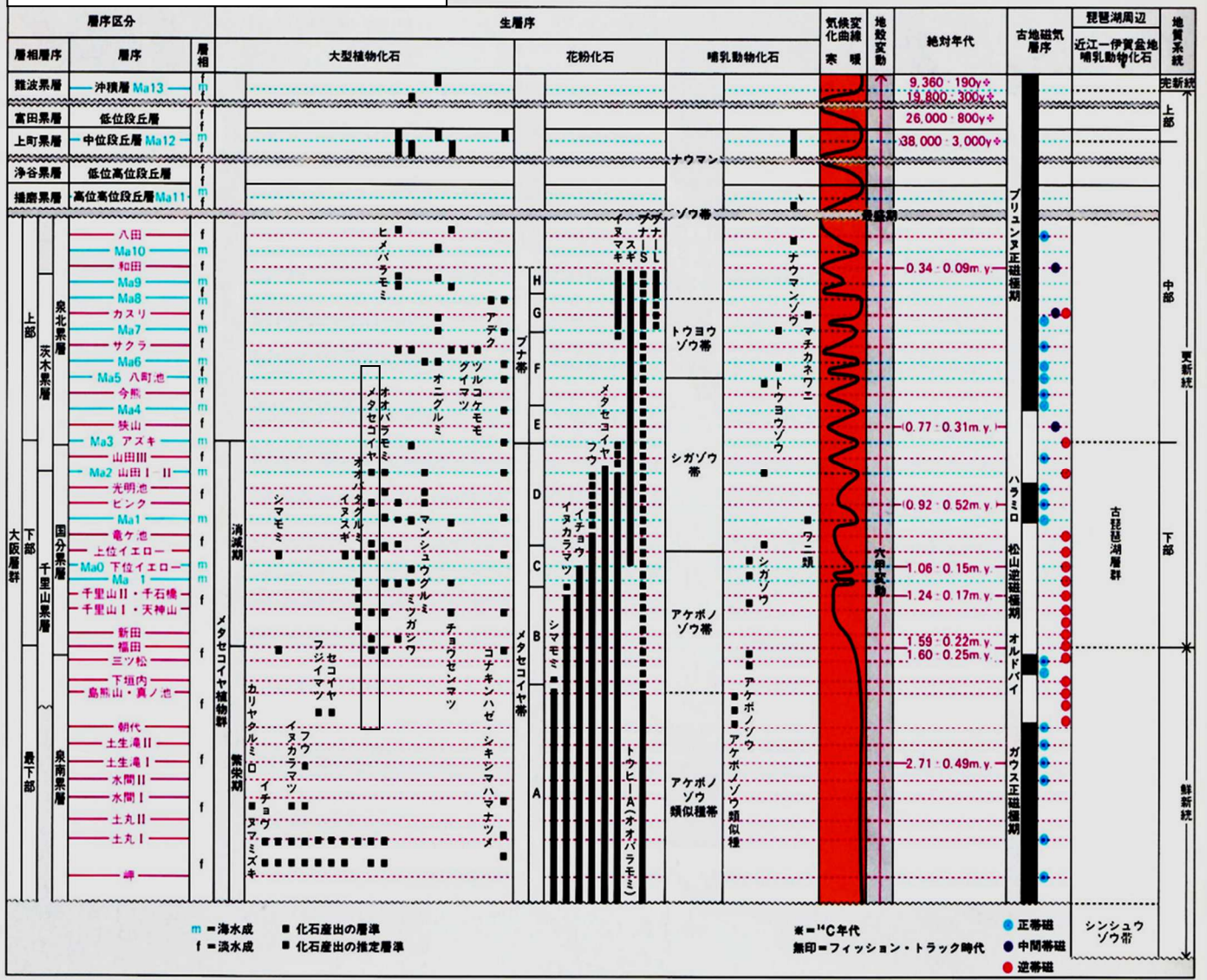
化石から発見といっても、化石は幹・枝・葉・花・花粉・果実がバラバラに掘り出されます。三木博士はその化石を組み合わせ全体像を復元し、植物の系統的關係を明らかにして、セコイア属の新種の植物メタセコイア(メタ新種)として、発表されました。この発見の根拠に用いた化石資料の一つが、植物園内でも掘り出されており、その場所が、現在メタセコイアが定植されている場所とのことです。

1941年発見当時は現存しておらず絶滅したと思われていたが、1945年に中国四川省で発見され、アメリカ経由で、1950年に日本に入ってきた100本のうちの1本が、植物園内に植えられています。生きた化石として有名なメタセコイア、私市植物園では「最初の導入木」と表示されています。



大阪層群の総合層序表

(市原・吉川・亀井, 1984に加筆)



IV 次回探鳥会 2024/12/28(土) くらんど園地 9:30 私市駅前

今月と同じように、大阪支部 HP のホームズ様式からお申し込みください。
今年は冬鳥の渡来が遅いようですが、ルリビタキ・ミヤマホオジロなどが出してくれるでしょうか？

V 探鳥会記録(ほしだ園地・くろんど園地)

Table with columns for species name (科名), common name (種名), bird count (鳥類目録 No), date (年月日), and a 12-day observation record (2024) for each day (1-12). Includes species like キジ, カモ, カイツブリ, etc.

Table with columns for species name (科名), common name (種名), bird count (鳥類目録 No), date (年月日), and a 12-day observation record (2024) for each day (1-12). Includes species like ウグイス, エナガ, ムシクイ, etc. Ends with a summary table (観察種数合計).